立命館アジア太平洋大学
在学生アンケート
基礎集計報告書 2024 年度

全学企画オフィス

メール:
[irteam@apu.ac.jp]

内容

調査の概要 3

＜調査の目的＞ 3
＜調査の対象＞ 3
＜調査の方法＞ 3
＜調査の期間＞ 3
＜主な調査項目＞ 3
＜回収の状況＞ 3
＜回答者の属性＞ 4

回答状況 6

＜反対言語レベル＞ 6
＜授業外学習時間＞ 8
＜異文化交流機会＞ 11
＜大学生活の満足度・帰属意識＞ 14
＜卒業後のキャリアプラン＞ 18
＜成長実感（入学以降 APU で習得した資質や能力）＞ 22

おわりに 23

調査の概要

＜調査の目的＞

在学中における成長実感を調査するとともに、学生の実態を調査することで、教育成果の検証を行うとともに課題に関する現状把握を行い、改善活動に繋げる。

＜調査の対象＞

対象学部：

APM：国際経営学部

APS：アジア太平洋学部

ST：サステイナビリティ観光学部（2023 年新設のため、3 セメスターまで）

対象セメスター：

2024 年度の秋セメスターに在籍していた 2 セメスターから 7 セメスターの学部学生 4,159 人。

＜調査の方法＞

インターネットによるオンライン調査（記名）

＜調査の期間＞

2024 年 12 月から 1 月末まで

＜主な調査項目＞

1）　反対言語の使用レベル
2）　授業外学習時間
3）　異文化交流機会
4）　大学生活の満足度・帰属意識
5）　成長実感（入学以降 APU で習得した資質や能力）
6）　キャリアプラン

＜回収の状況＞

対象者 4,159 人に対し調査を実施し、2,557 人より回答を得た
回答率 61.5%（AY2023 年回答率 54.0%）

Summary

Domestic / I..	APM	APS	ST	総計
Domestic	402/899	584/1,210	137/207	1,123/2,316
International	651/1,065	412/680	34/50	1,097/1,795
総計	1,053/1,964	996/1,890	171/257	2,220/4,111

＜回答者の属性＞

国内学生・国際学生、学部別の内訳および回答時の所属セメスター別の内訳を以下に示す。

◆国内学生・国際学生別

国内学生の回答率は全体的に 50%台、国際学生の回答率は国内学生より一貫して高いことが明確であり、全ての部門で 65%以上との結果になる。

◆学部別

全体で 60%を超える回答率を維持しており、例年と比較しても良好と考えられる。特に ST 学部は国内・国際問わず高い回答率を誇っており、学生の関心・参加意欲が高いことがうかがえる。一方、APS 学部の国内学生の回答率がやや低め（52.6%）であり、今後の啓発・周知活動に改善の余地がある。

◆セメスター別

以前より低回生ほど回答率が高い傾向が全体で見られ、授業内や導入教育による周知効果が出ている可能性ある。後期セメスターでの回答率の低さ（特に 6・7 セメ）は国内学生で顕著。卒業・就職活動等の多忙期と重なることが一因と考えられる。

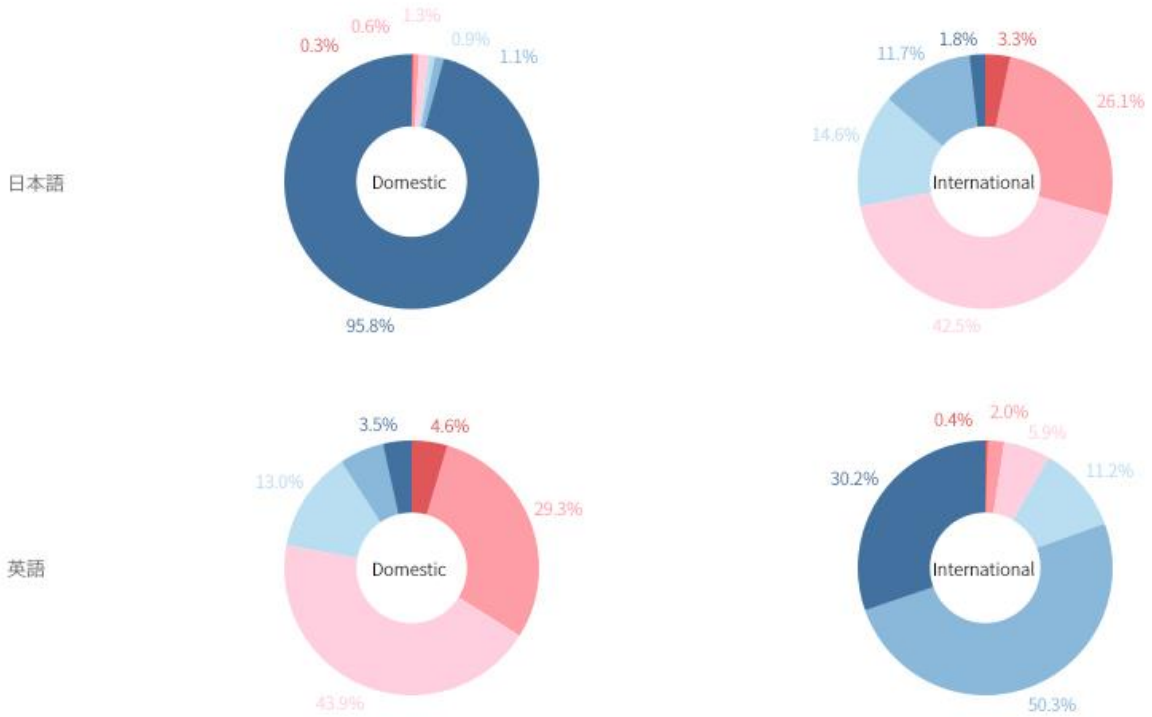
Summary (セメスター別)

	Domestic				International				総計
	APM	APS	ST	合計	APM	APS	ST	合計	
02	133/227	180/296	124/199	437/722	130/174	51/69	50/70	231/313	668/1,035
03	10/17	8/11	5/6	23/34	185/276	93/130	62/88	340/494	363/528
04	134/234	159/275	112/198	405/707	107/136	43/71	35/49	185/256	590/963
05	8/13	19/33		27/46	171/237	93/150		264/387	291/433
06	108/244	155/364		263/608	86/131	59/90		145/221	408/829
07	16/27	13/36		29/63	127/194	81/114		208/308	237/371
総計	409/762	534/1,015	241/403	1,184/2,180	806/1,148	420/624	147/207	1,373/1,979	2,557/4,159

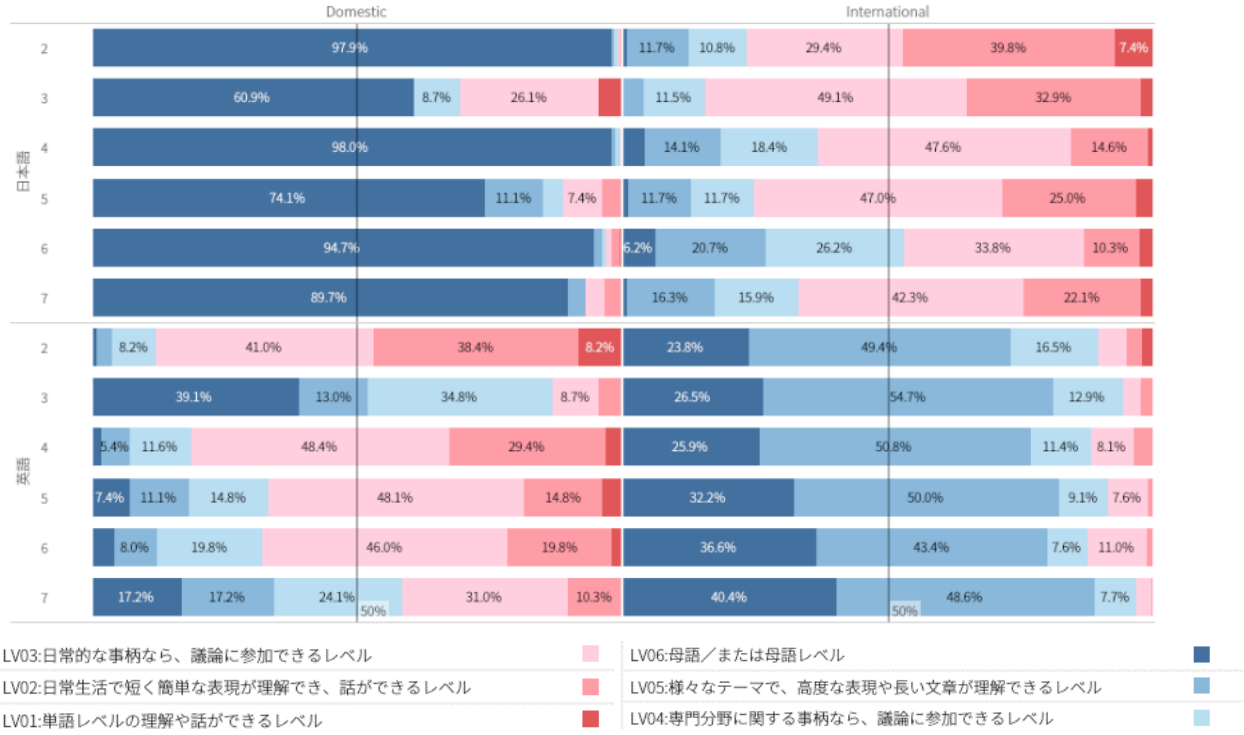
回答状況

＜反対言語レベル＞
学生自身の基本言語（日本語または英語）と反対の言語（日本語または英語）レベルに対する使用レベルについて質問した結果を以下に示す。

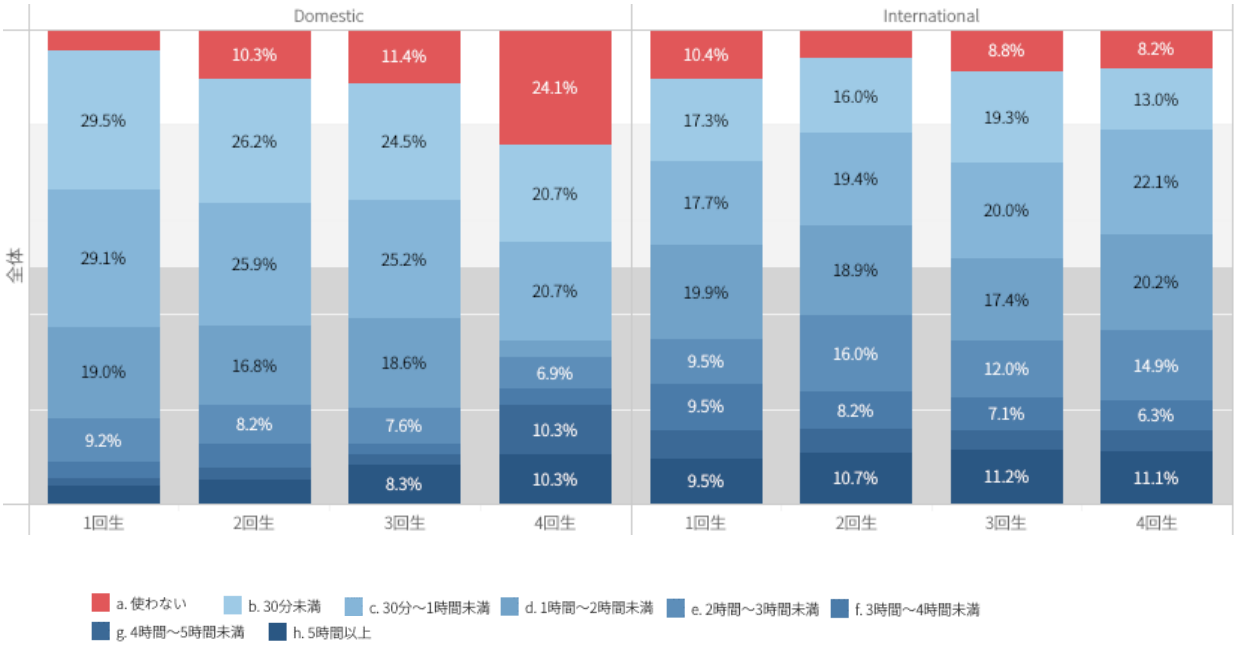
◆国内学生・国際学生別
国内学生のほとんどが日本語を母語としており、95.8%が「母国語レベル」と自己評価。英語に関してはLV03（日常的な事項なら会話可）～LV04（専門分野に関する話も議論可）が最多。
一方、国際学生では、「英語が母語、または母語レベル」であると答えた学生は約半数（50.3%）であり、残りの学生は第二言語として使用している可能性があります。日本語についてはLV03（会話参加レベル）～LV04（議論参加レベル）が中心。国内・国際学生にかかわらず、セメスターが進むと、反対言語レベルがやや向上する傾向がみられる。



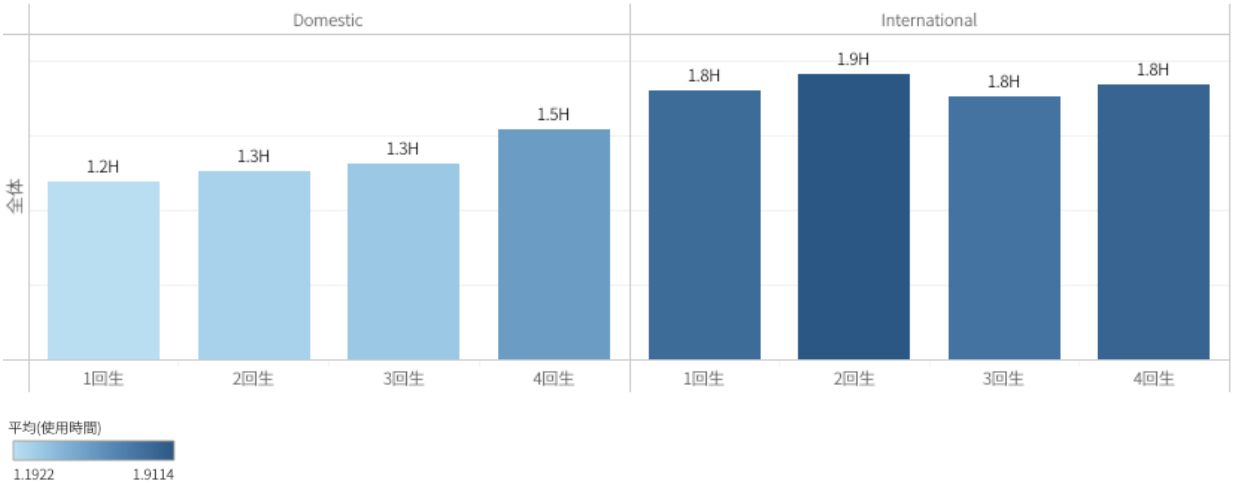
◆セメスター別
国内学生は英語力の高まりは緩やか。2 回生～4 回生で LV04（議論参加レベル）以上が徐々に増加するが、LV05～06 はごく少数。卒業直前（7 セメスター）でも LV02～03 が目立ち、専門的・抽象的な議論力への到達が困難な学生が多い。
国際学生の日本語力はセメスターが進むごとに語学力が向上に見られ、
特に LV04（議論参加レベル）以上が明確に増加し、LV05（複雑な文章理解）に到達する学生も 3～4 回生で増えている。学年の進行が語学成長に連動している点が顕著。



◆授業以外での反対言語の使用時間
国内学生は英語の使用時間は 1 回生で最も少なく、4 回生でやや増加（平均：1.2→1.5 時間/日）傾向だが、全体として少ない（平均 1.2 時間/日）のため、自然な使用環境が不足している可能性によって語学力の伸びも限定的。そのため、学年が上がっても英語の高レベルに届く割合が低く、環境・動機づけの不足が示唆される。
国際学生は日本語の使用時間が 1 回生から安定して（1.8～1.9 時間/日）使用する傾向があり、学年関係なく平均 1.91 時間と国内学生よりも 1.6 倍使用。日常生活や課外活動で日本語使用が根付いているとうかがえ、学年が進むにつれて語学力を着実に伸ばしている。



使用時間（以下で換算； a:0時間, b:0.25時間, c:0.75時間, d:1.5時間, e:2.5時間, f:3.5時間, g:4.5時間, h:5時間）

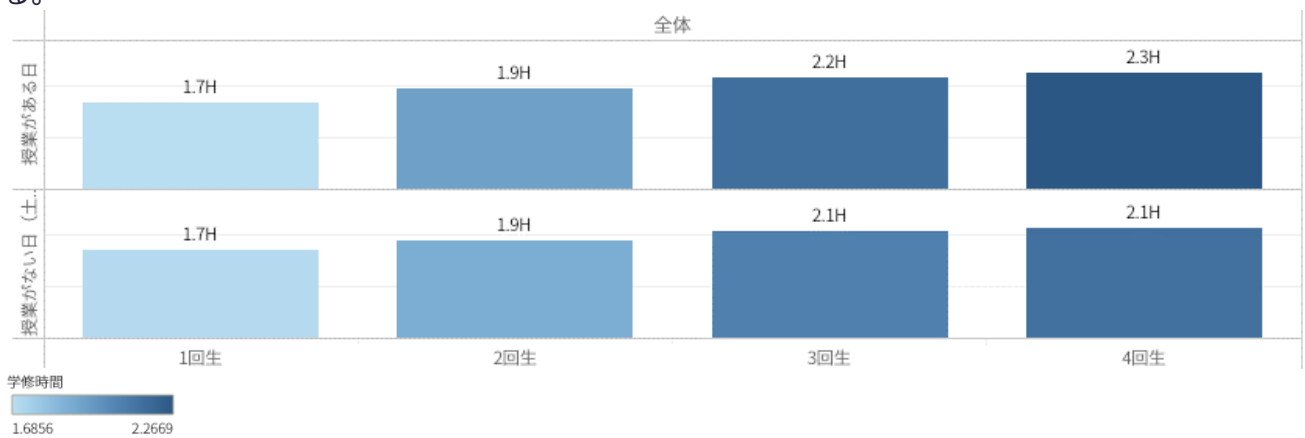


＜授業外学習時間＞

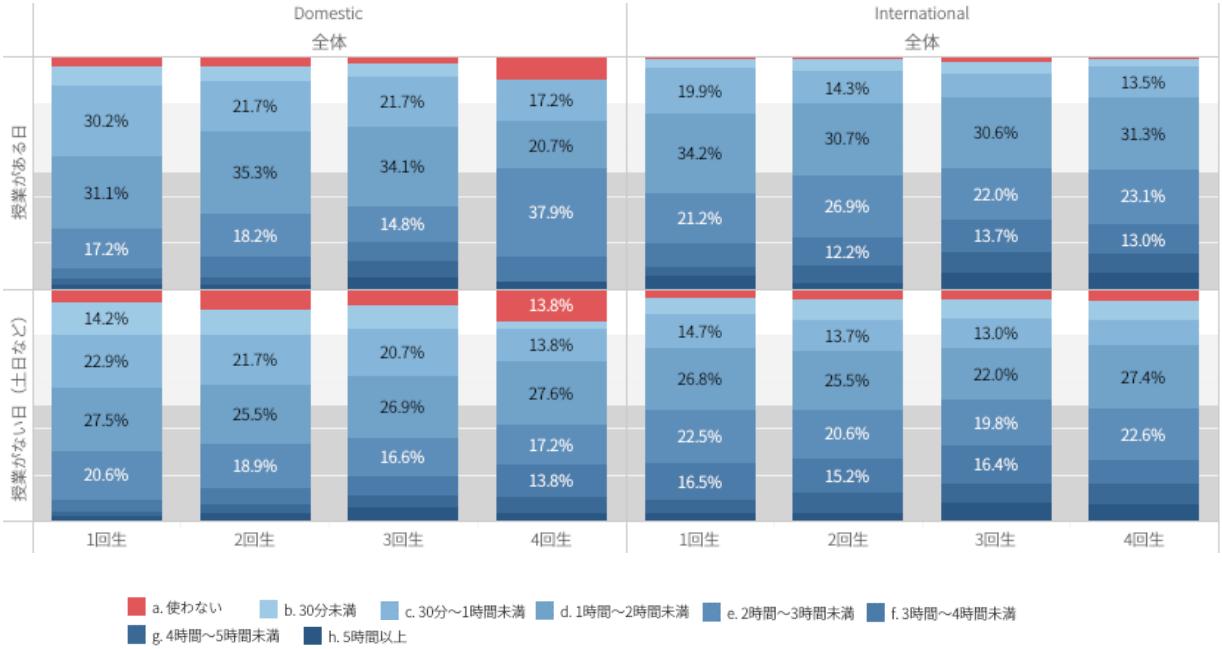
セメスター中の１日あたりの授業以外の学習時間について質問した結果を以下に示す。
選択肢を以下のように換算し、平均値を算出した。

選択肢	換算時間数
a. しない	0 時間
b. 30 分未満	0.25 時間
c. 30 分～1 時間未満	0.75 時間
d. 1 時間～2 時間未満	1.5 時間
e. 2 時間～3 時間未満	2.5 時間
f. 3 時間～4 時間未満	3.5 時間
g. 4 時間～5 時間未満	4.5 時間
h. 5 時間以上	5 時間

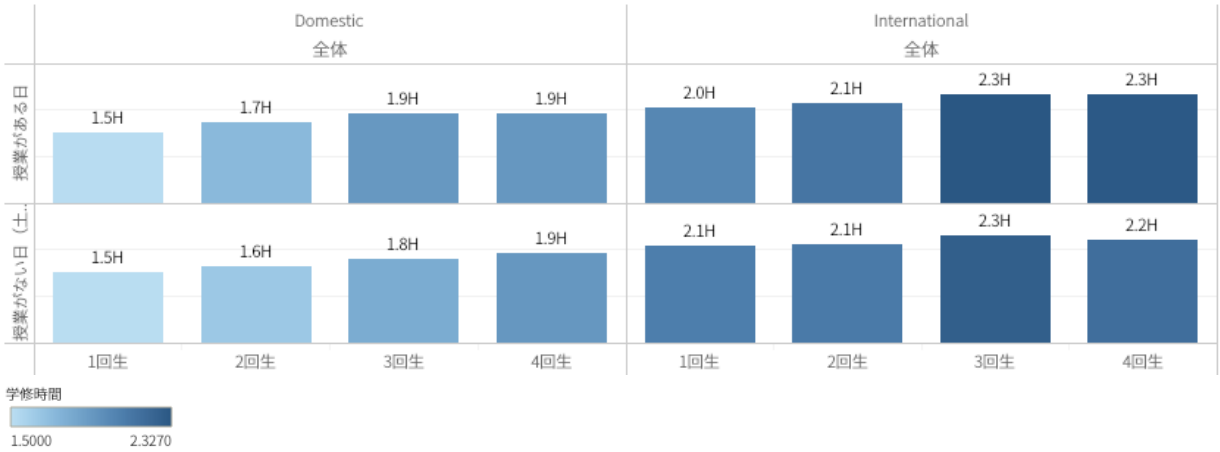
◆全体
全体平均では、昨年度同様、授業の有無によって学習時間が大きく変わる学生は少ないが、3～4 回生ではやや「授業がある日」の方は学習時間が長い傾向がある。また、昨年度と比較した結果、授業外の学習時間が平均 2.0 時間程度に増加している。
文科省による令和 4 年度「全国学生調査（第 3 回行実施）」項目 41「予習・復習・課題など授業に関する学習　※卒業論文等は除く（平均的な1週間（7日間）」[1] と比較した結果、全国平均より授業外の学習時間が長い傾向。特に、1 回生から 4 回生にかけて、全国平均を上回る学習時間を確保していることが確認できる。



◆国内学生・国際学生別
国内学生の 1 回生では授業の有無にかかわらず「1 時間未満(a～c)/日」の割合が顕著。特に授業がない日には「a. しない(赤)」の割合が比較的高いため、学習時間の確保に課題が見える。3・4 回生は徐々に「2 時間以上/日」の割合が増加傾向はあるが、自律学修の導入が不十分な可能性がみられる。
国際学生は授業の有無に関係なく、2 時間以上(色:濃紺～薄紺)の回答が多く、安定した学習習慣が見られる。国内学生よりも一貫して学習時間が長く(0.3～0.8 時間差/日)、特に「授業がない日」においても平均 2 時間以上の学習を維持している点が特徴的である。

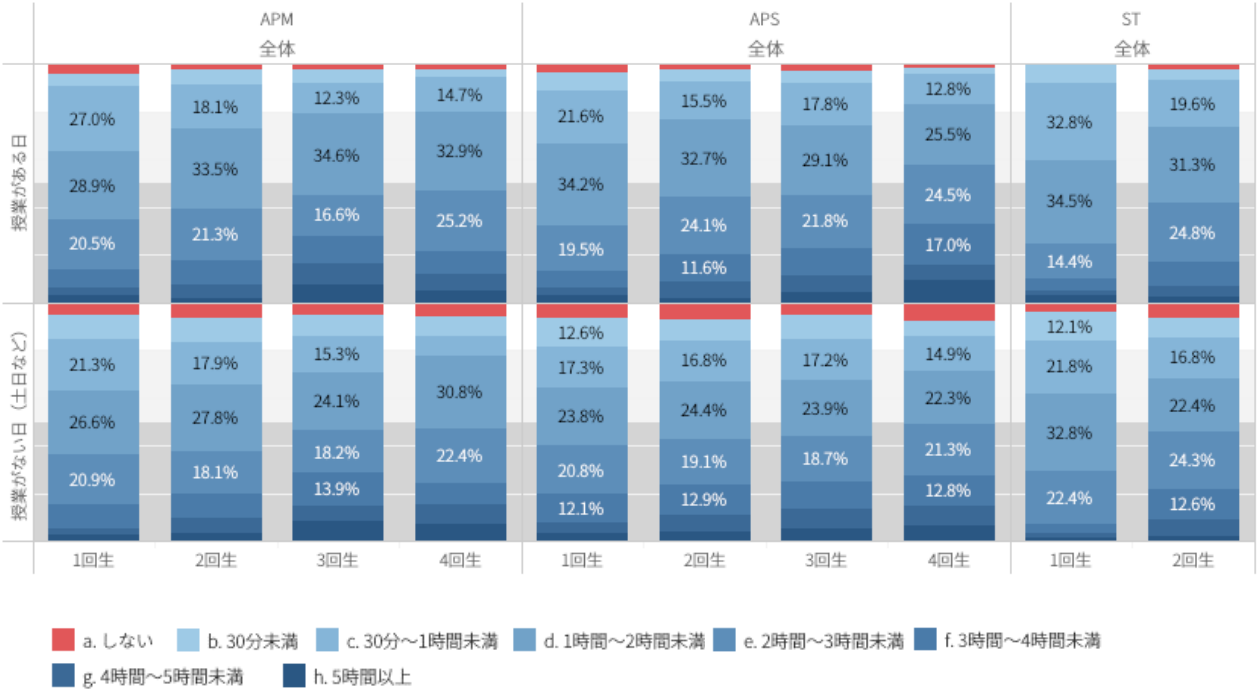


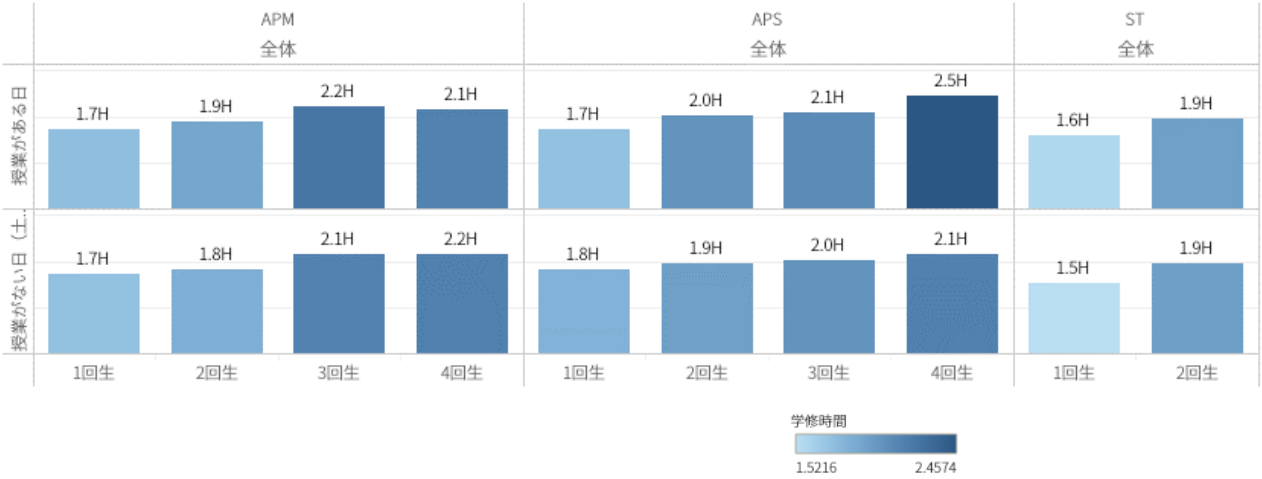
(以下で換算； a:0時間, b:0.25時間, c:0.75時間, d:1.5時間, e:2.5時間, f:3.5時間, g:4.5時間, h:5時間)



[1] https://www.mext.go.jp/kaigisiryo/content/000245153.pdf

◆学部別
APS は最も学習時間が長い、特に 4 年次で 2.5 時間と高水準との結果。「2 時間以上」回答（濃緑）の割合が他学部より多い。
APM は分布が平均的で、特定の傾向に偏らないがやや休日に増える傾向ある。
ST 学部では「1 時間未満」の回答が目立ち、授業日の影響も受けにくいため、学習習慣形成の支援が必要と考えられる。

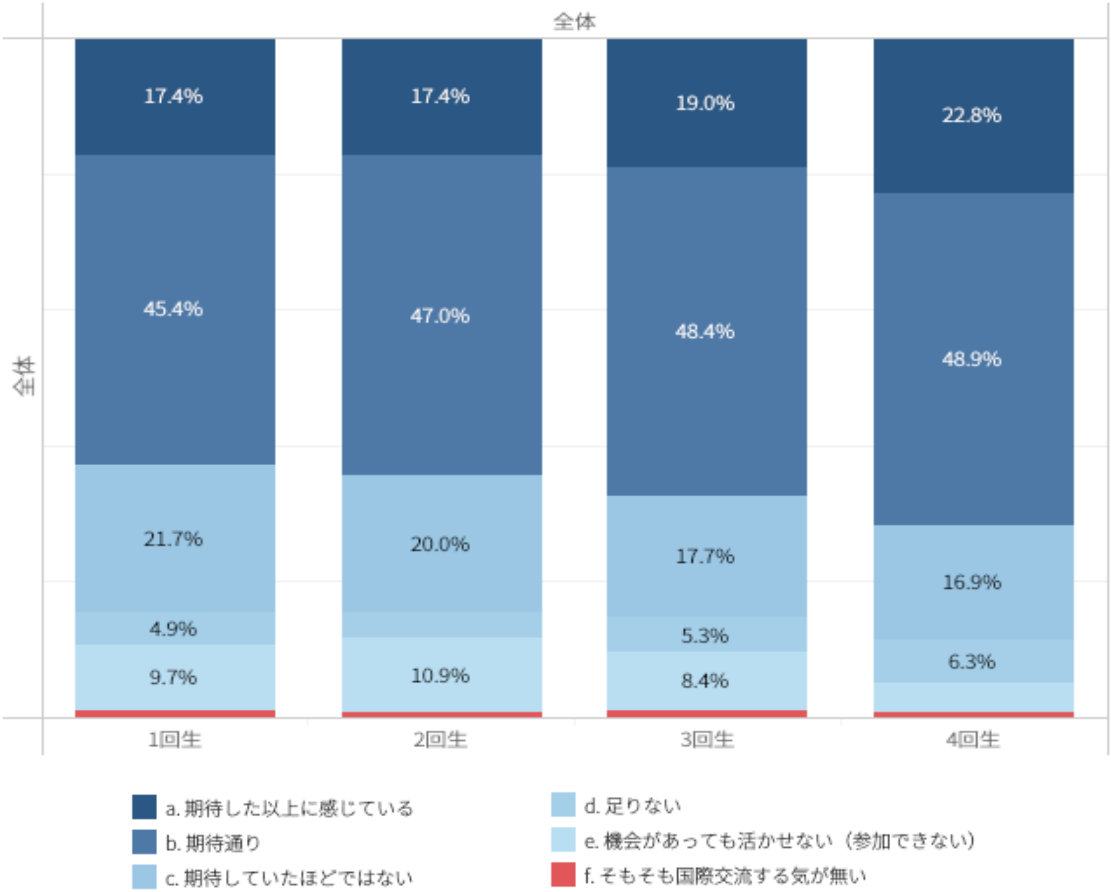




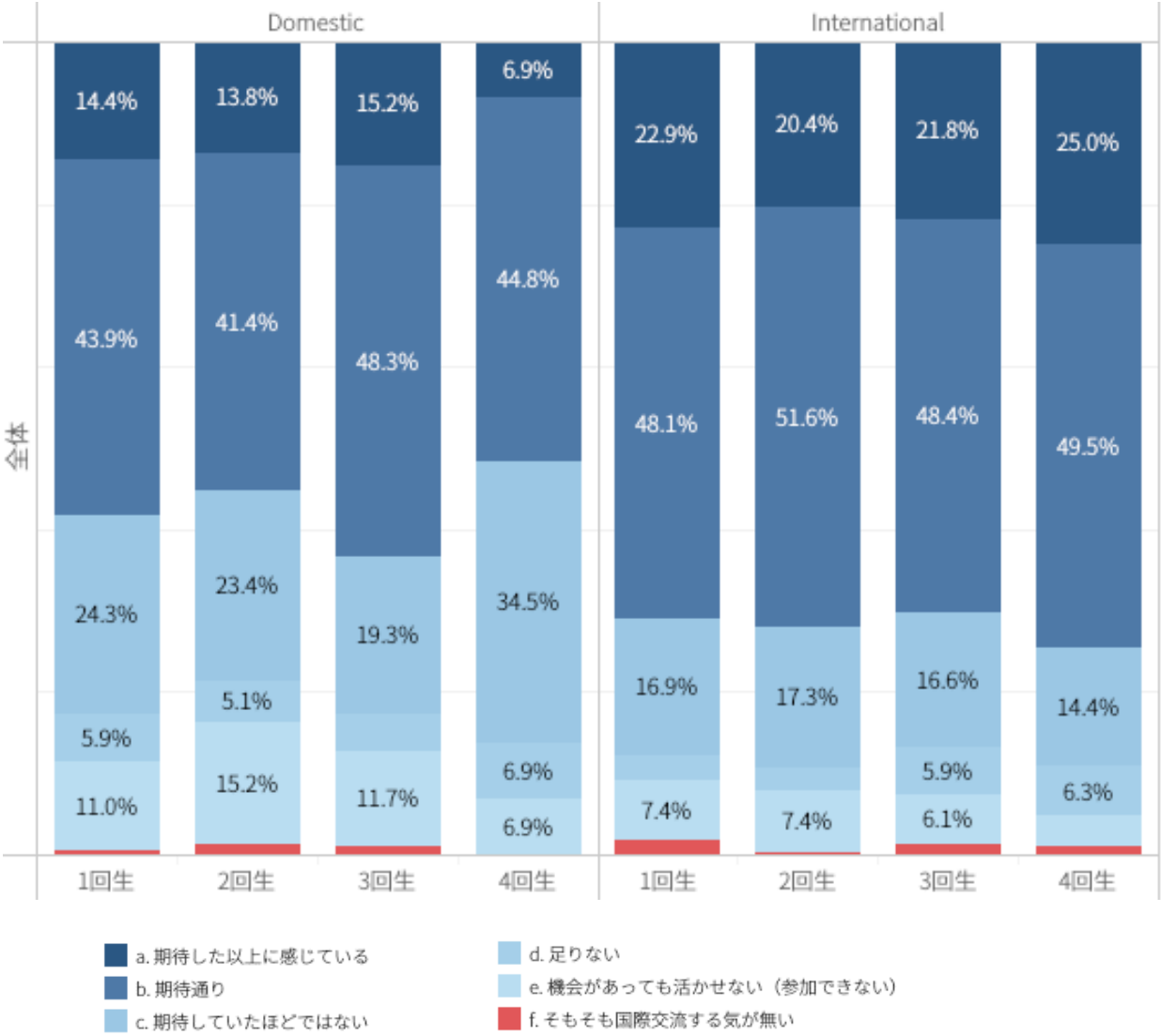
＜異文化交流機会＞

国際交流・異文化交流の機会について学生に質問した結果を以下に示す。

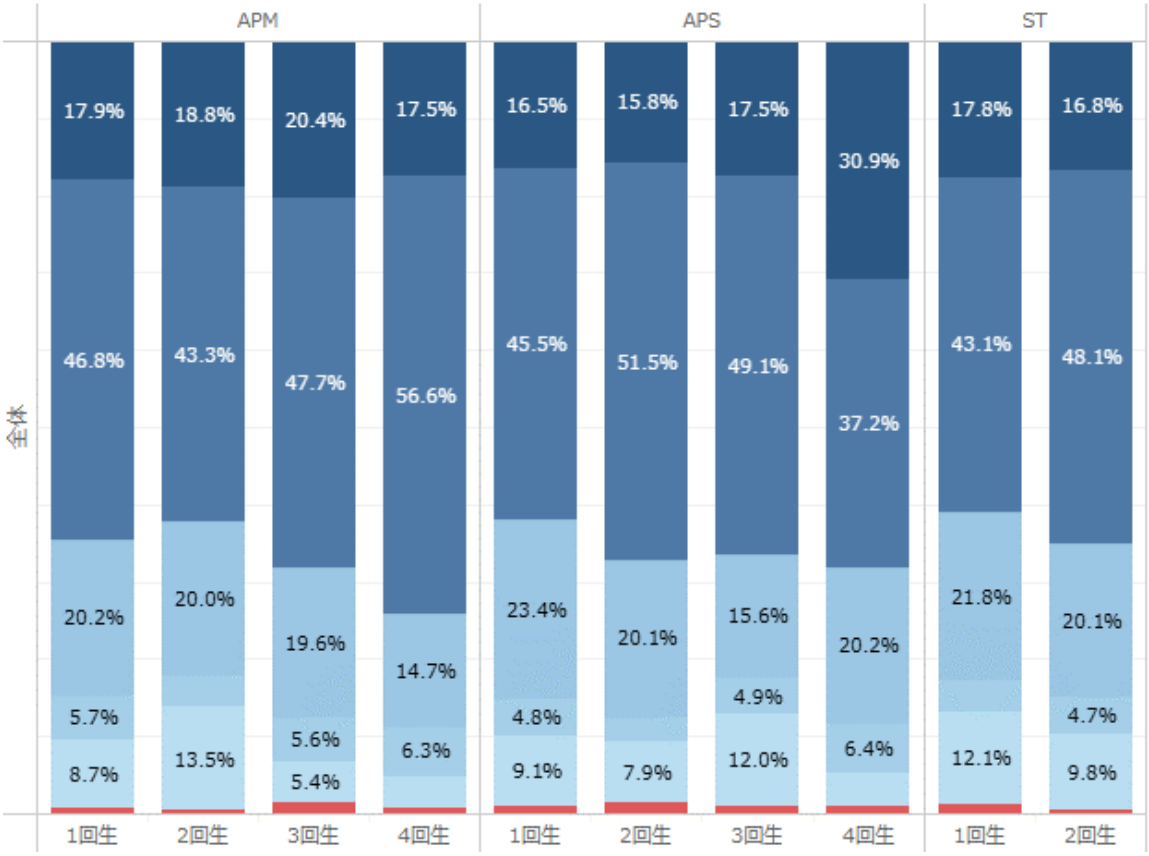
◆全体
学年が上がるほど満足度が上昇している傾向がみられる。「非常にそう思う」「ややそう思う」の割合は 4 回生が 71.7%(22.8% + 48.9%)となり、1 回生の 62.8%(17.4% + 45.4%)より 8.9%上昇。一方、不満(「あまりそう思わない」「そう思わない」)の割合は 1・2 回生でやや高いため、満足度の評価は経験やネットワークが関与していると推測できる。
また、昨年度と比較した結果、満足度が約 60%前後(1～4 回生平均)から約 65～70%に上昇した。



◆国内学生・国際学生別
国内学生の満足度(「非常にそう思う」「ややそう思う」)は総じて 50～60%程度に留まり、不満層が顕著に多いため、要因究明が必要。一方、国際学生の満足度が全体的に高く、「そう思わない」割合は各学年とも 5～7%台で、国内学生よりもかなり低いことが目立つ。
交流機会の設計は、国際学生には効果的に機能しているものの、国内学生には十分に活用されていない可能性がみられる。



◆学部別
APS：満足度の傾向は全体平均とほぼ同じ。2 回生・3 回生は「非常にそう思う」「ややそう思う」が 50%を超えており、全学部中で最も安定的に高い満足度を示す。
APM：学年が進むほど満足度が増加。4 回生では「非常にそう思う」が 20.4%、「ややそう思う」が 56.6%と最も高い。ただし、1 回生は不満が多め（「そう思わない」8.7%、あまりそう思わない 5.7%）。
ST：他学部に比べて満足度の差が小さいが、1・2 回生に不満層（赤色）が比較的多い（12.1%、9.8%）。

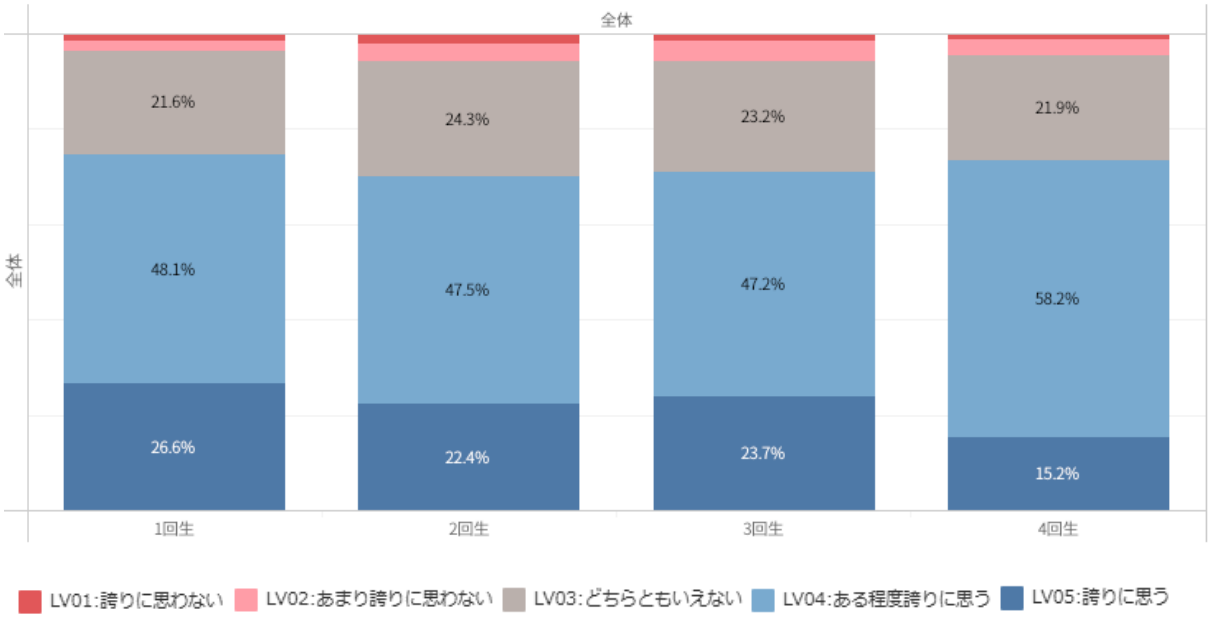


＜大学生活の満足度・帰属意識＞

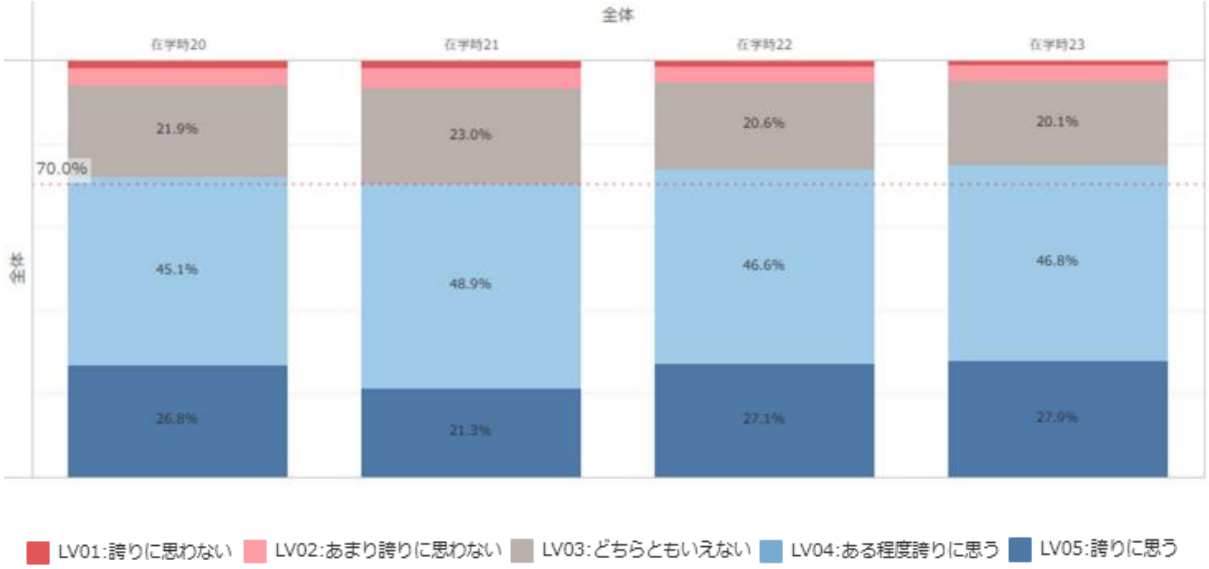
大学生活の満足度と帰属意識について「APU に在籍していることを誇りに思うか」（満足度）と「APU への入学を知人や後輩にどの程度勧めたいか」（推奨度）という質問を通じて、結果を以下に示す。

◆全体

APU への誇りは年次が上がるにつれて、「誇りに思う」割合が減少する傾向がある、一方年次関係なく、否定的な回答の割合は 5％未満のため、大学に対して大きな不満はないと考える。学年が上がるにつれて現実的・批判的な視点が強まり、「強い誇り」から「一定の満足」にシフトしていると推測する。



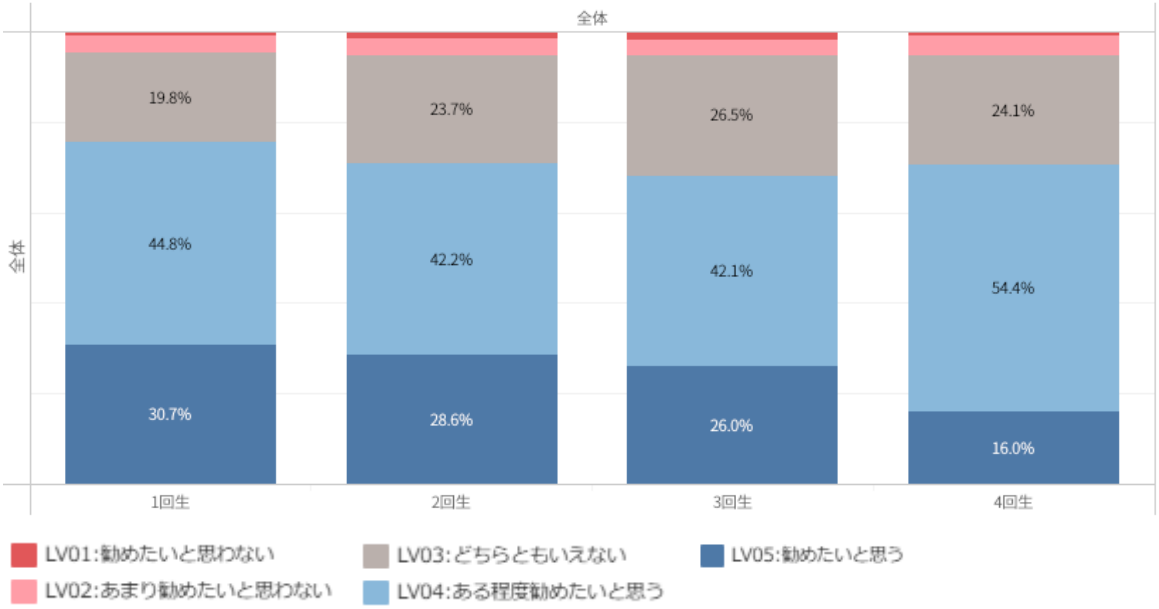
参考：経年データ



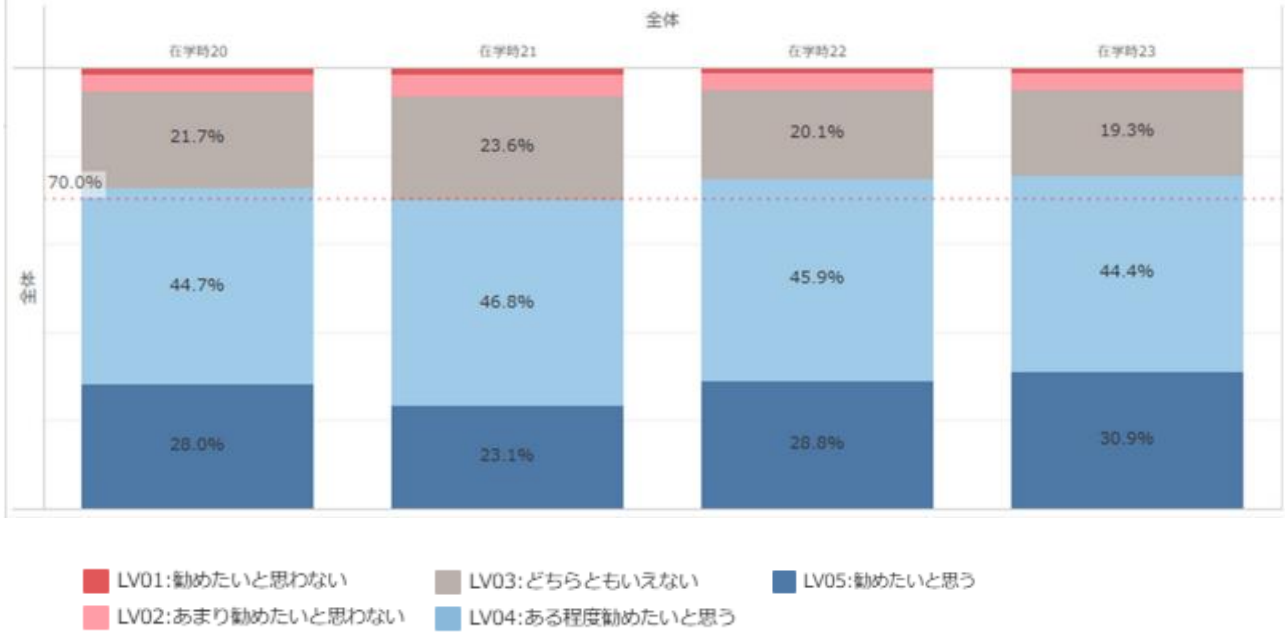
APU 推奨度は「勧めたい」「ある程度勧めたい」は全体的に 71%を占めている一方、勧めたい」割合も学年が上がると減少し、「どちらともいえない」は全学年でほぼ横ばいことから、強い推薦意欲はやや落ちるが、多くの学生が「ある程度の満足感」をもって大学を推薦できる状態にある。
結果から、満足度と推奨度には相関性が高いことが伺える。

満足度（2）APUを他人に勧めるかどうか

APUの環境を活用できそうな知人や後輩（APU生以外）に、APU入学をどの程度勧めたいと思いますか？
あなたの気持ちとして近いものをひとつ選んでください。



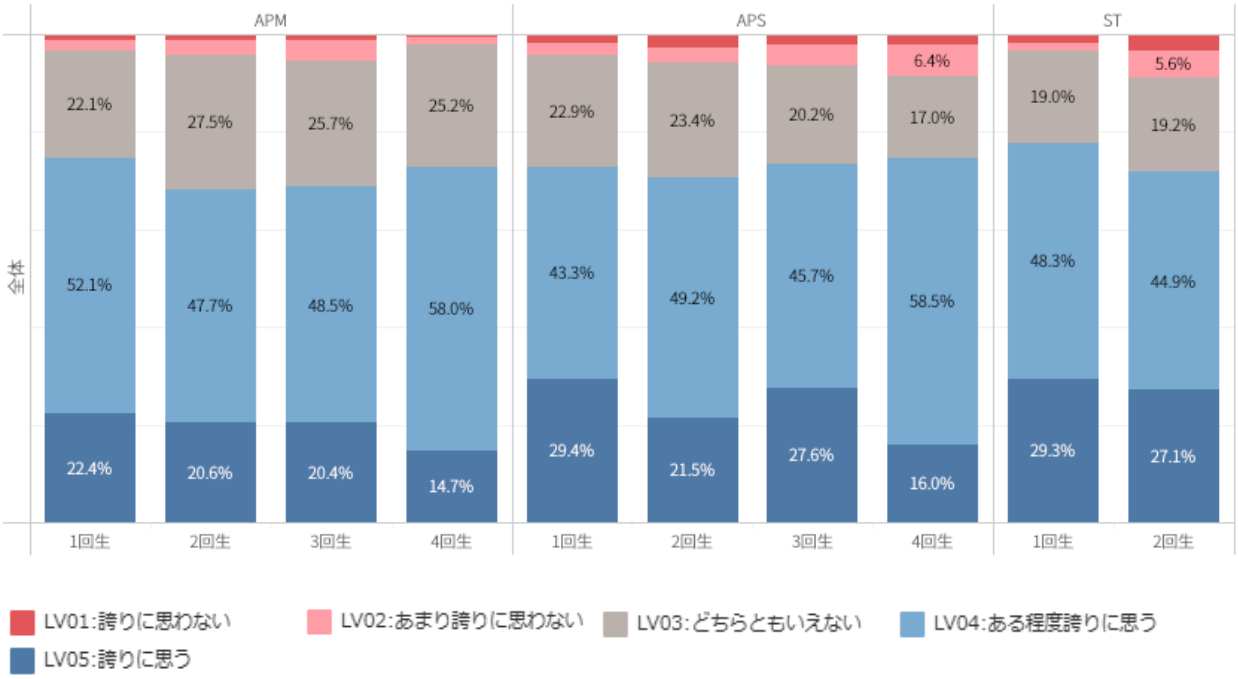
参考：経年データ



◆学部別満足度(誇りに思うか)
APS、APM は概ね 70%前後と高評価だが、4 回生で「誇りに思う」割合が減少する傾向ある。
ST 学部は学年ごとのばらつきが少なく、安定して「誇りに思う」ことが高い結果がわかる。

満足度

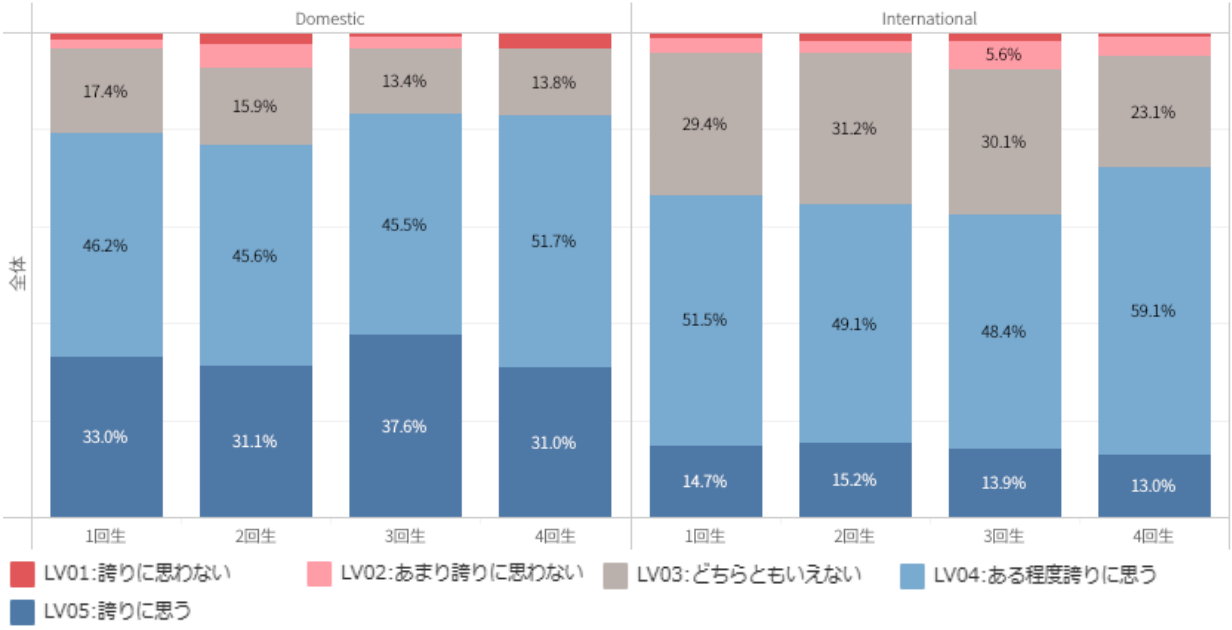
APUに在籍していることをどの程度誇りに思いますか？あなたの気持ちとして、近いものをひとつ選んでください。



◆国内・国際学生別満足度(誇りに思うか)
国内学生は学年が上がるごとに「ある程度誇りに思う」が増え、「誇りに思う」がやや減少傾向があるものの、学年が上がると肯定的評価が強まり、全体的には誇りが高くと評価。
国際学生は全学年で「誇りに思う」が低水準(13～15%程度)、「ある程度誇りに思う」の割合が高い(48～51%)、否定的回答が目立つ。

満足度

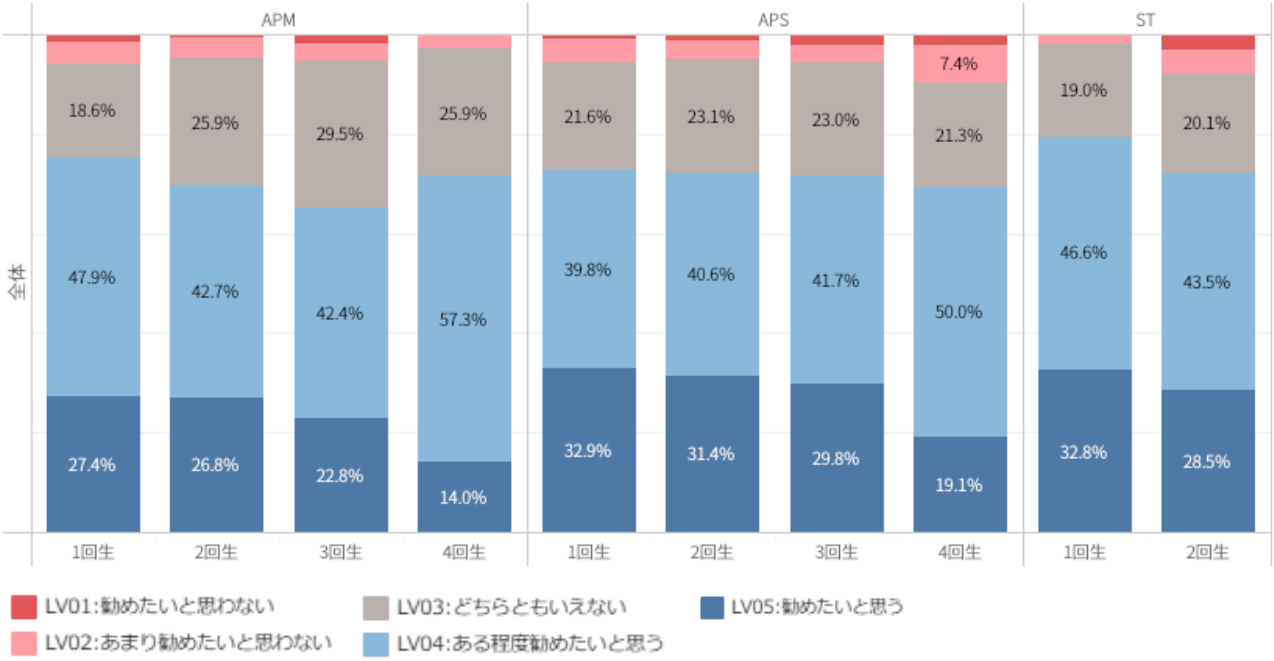
APUに在籍していることをどの程度誇りに思いますか？あなたの気持ちとして、近いものをひとつ選んでください。



◆学部別推奨度
APS:1～3 回生の評価が安定しており、「勧めたいと思う」が他学部より高い水準を維持。
APM:学年があがるごとに「勧めたいと思う」が減少し、4 回生でわずか 14.0%の回答になる。
ST:1 回生時点での推奨度が最も高い傾向がみられる。

満足度（2）APUを他人に勧めるかどうか

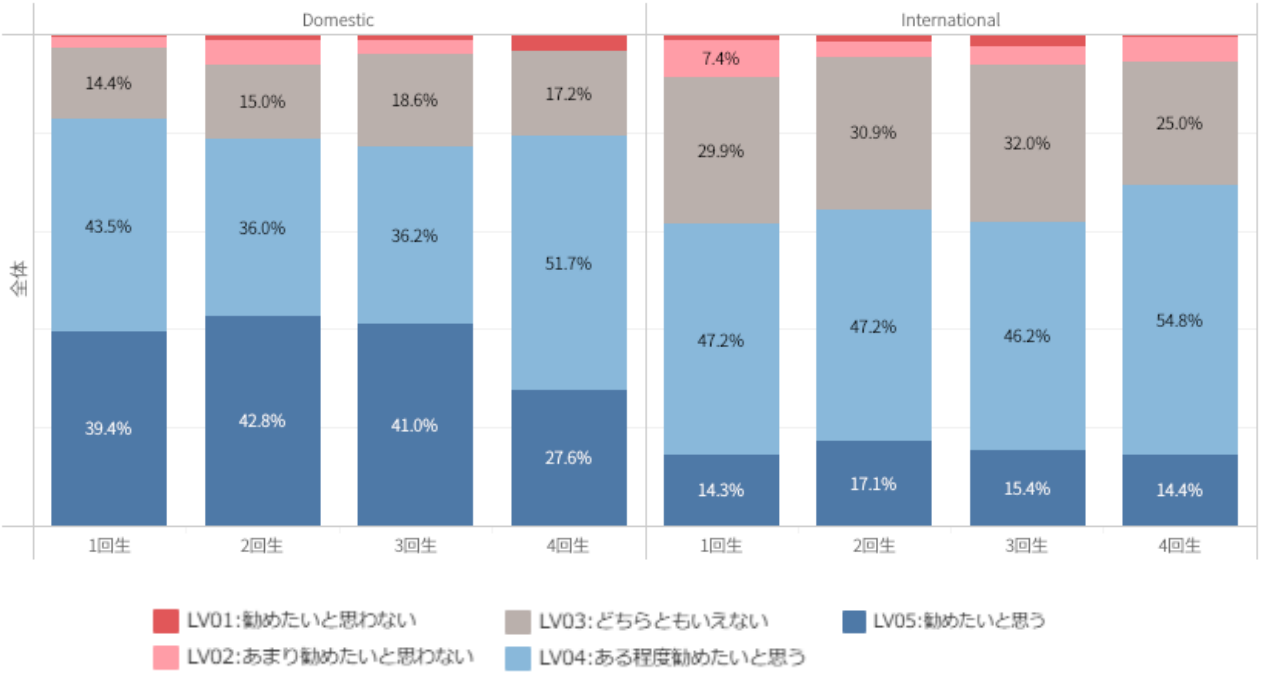
APUの環境を活用できそうな知人や後輩（APU生以外）に、APU入学をどの程度勧めたいと思いますか？
あなたの気持ちとして近いものをひとつ選んでください。



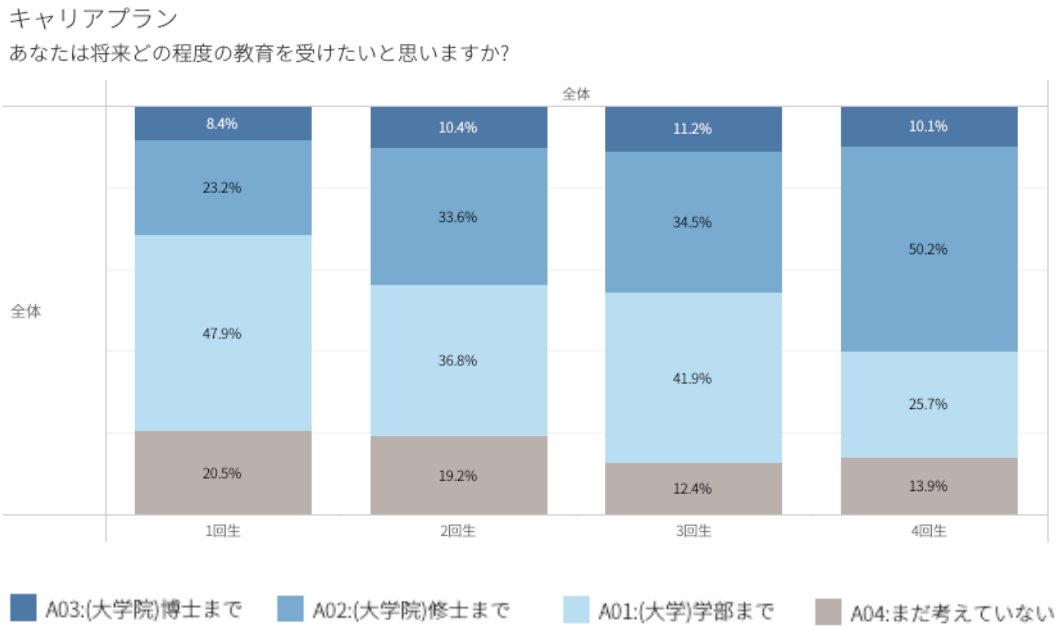
◆国内・国際学生別推奨度
国内学生は1回生の評価が一番高く、4年間を通じて推奨度が高く安定しているが最終学年で「勧めたいと思う」割合が急減傾向。
国際学生は「勧めたいと思う」が学年問わず 15～17%前後と国内学生より低く、「どちらともいえない／否定的意見」がやや多い傾向がみられる。

満足度（2）APUを他人に勧めるかどうか

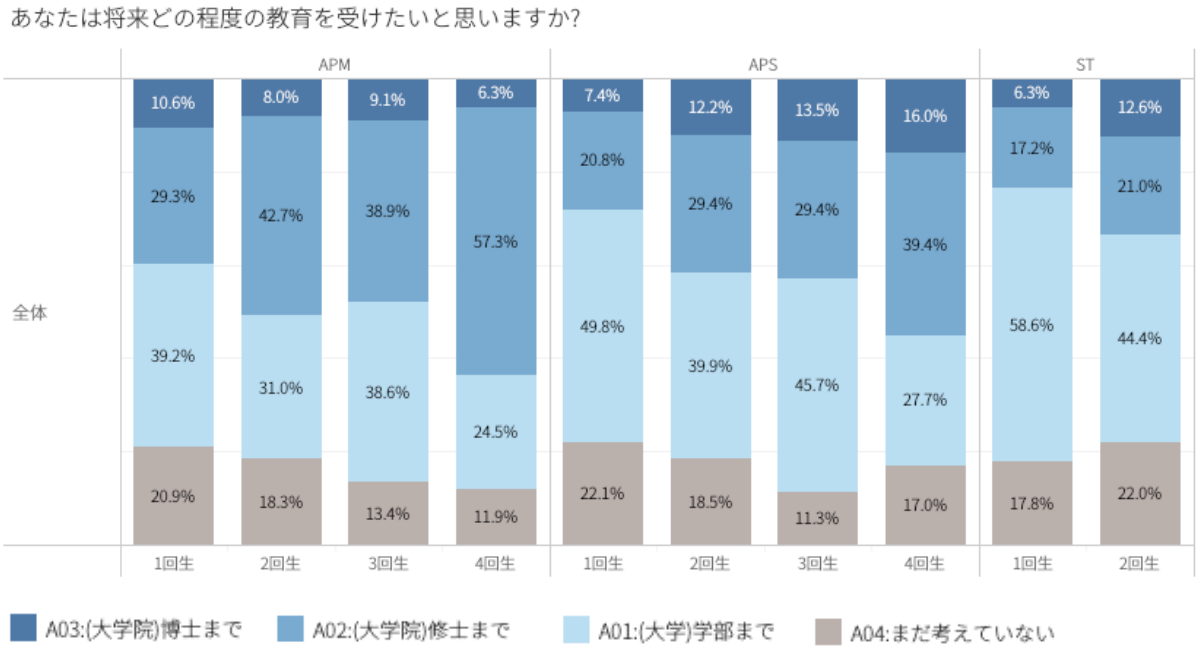
APUの環境を活用できそうな知人や後輩（APU生以外）に、APU入学をどの程度勧めたいと思いますか？
あなたの気持ちとして近いものをひとつ選んでください。



＜卒業後のキャリアプラン＞
卒業後の進学について質問した結果を以下に示す。
◆全体
学年が上がるにつれて学生の高度な教育を望む傾向がみられる。特に 3 回生から 4 回生にかけて、「大学院(修士まで)」「大学院(博士まで)」の割合が 6 割を超え、将来の進路に対する具体的な意識が高まり、より実践的なキャリア支援を求める声が強まる傾向。



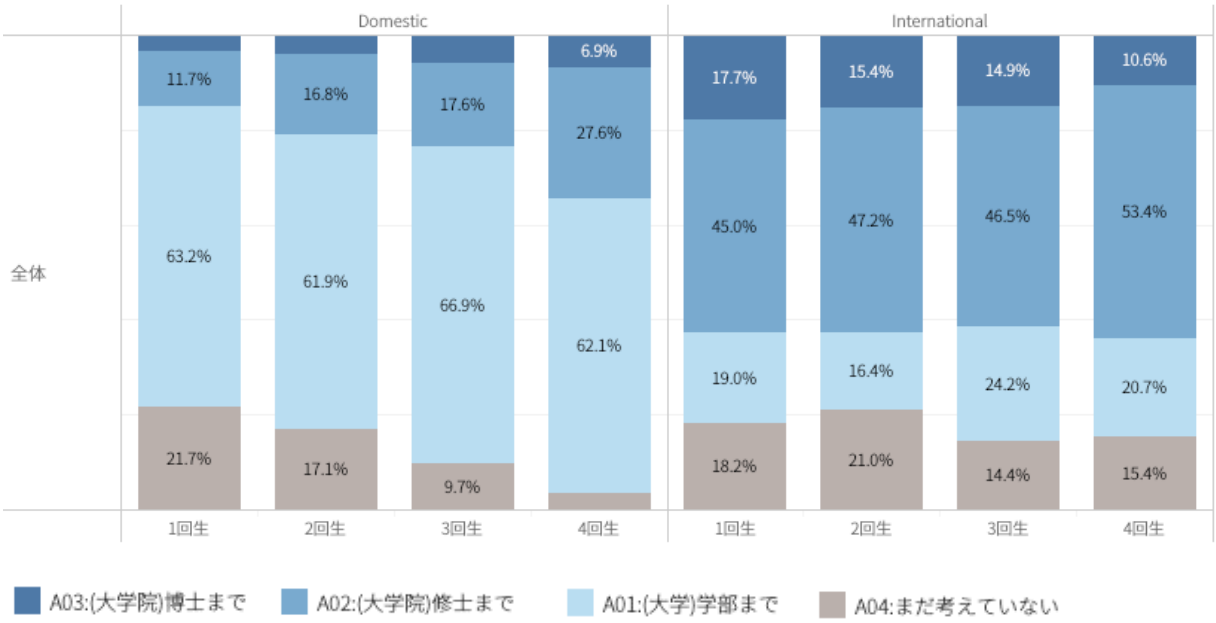
◆学部別
APS:1 回生で「(大学院)修士まで」志向(49.8%)が強いが、3 回生で大学卒希望が増加する一方、4回生で「(大学院)博士まで」の回答割合、「「まだ考えていない」と回答した割合は、APM よりやや高い傾向。キャリアの多様性・選択肢の幅広さによる、進路を絞りきれない学生が多い可能性と推測。
APM:学年が上がるごとに進学希望の割合が顕著に増加し、特に4回生では「大学院(修士まで)」57.3%、「大学院(博士まで)」6.3%を選択。
ST:2回生までしかいないため、対象外とする。



◆国内・国際
学生別

国内学生は年次関係なく約6割は「(大学)学部まで」を志望する一方、学年が上がるごとに「まだ考えていない」割合が減少し、「大学院(修士まで)」の割合が増加。実務志向が強まり、学部卒でのキャリア選択が中心と考えられる。
国際学生は進学意欲が全体的に高く、「(大学院」修士まで」進学希望が 47%前後で安定し、「(大学院)博士まで」志望も 15%前後と国内学生より高い。文化や将来ビジョン、母国の教育事情等も影響している可能性と推測する。

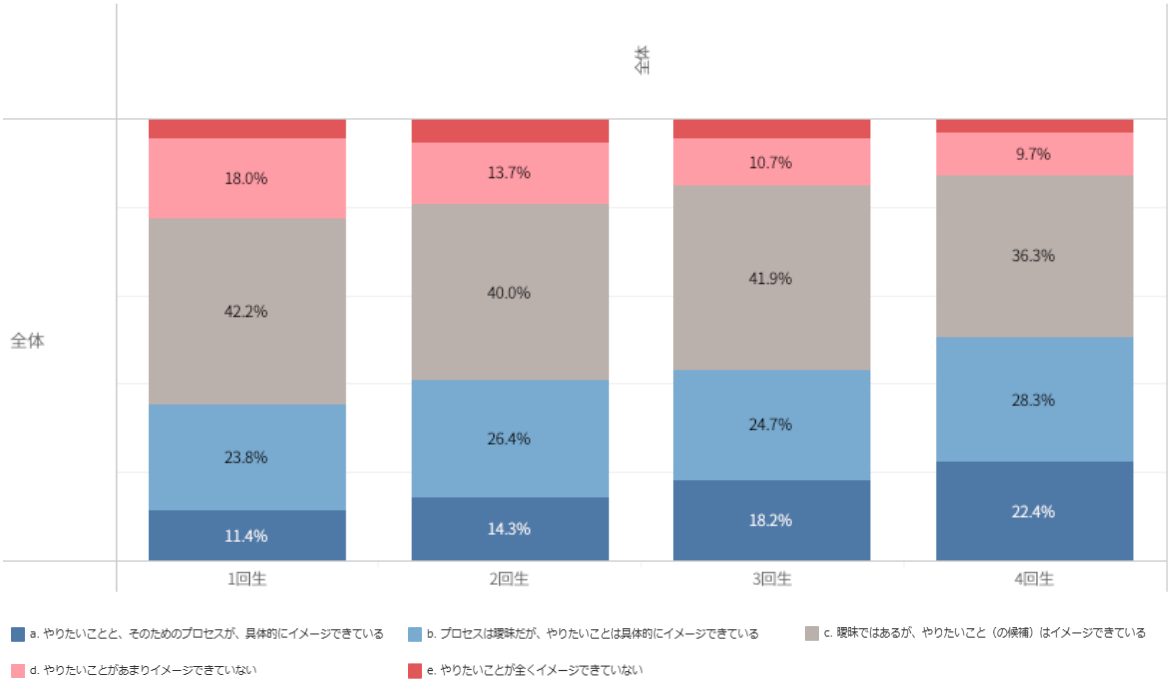
キャリアプラン
あなたは将来どの程度の教育を受けたいと思いますか?



卒業後のやりたいことや仕事について質問した結果を以下に示す。

◆全体
学年が上がるほど将来のイメージが具体化している傾向、特に就職活動などの影響で、4 回生では「やりたいことが具体的にイメージできている」割合が 50.7%となり、1 回生時の 35.2%より約 1.5 倍上昇。

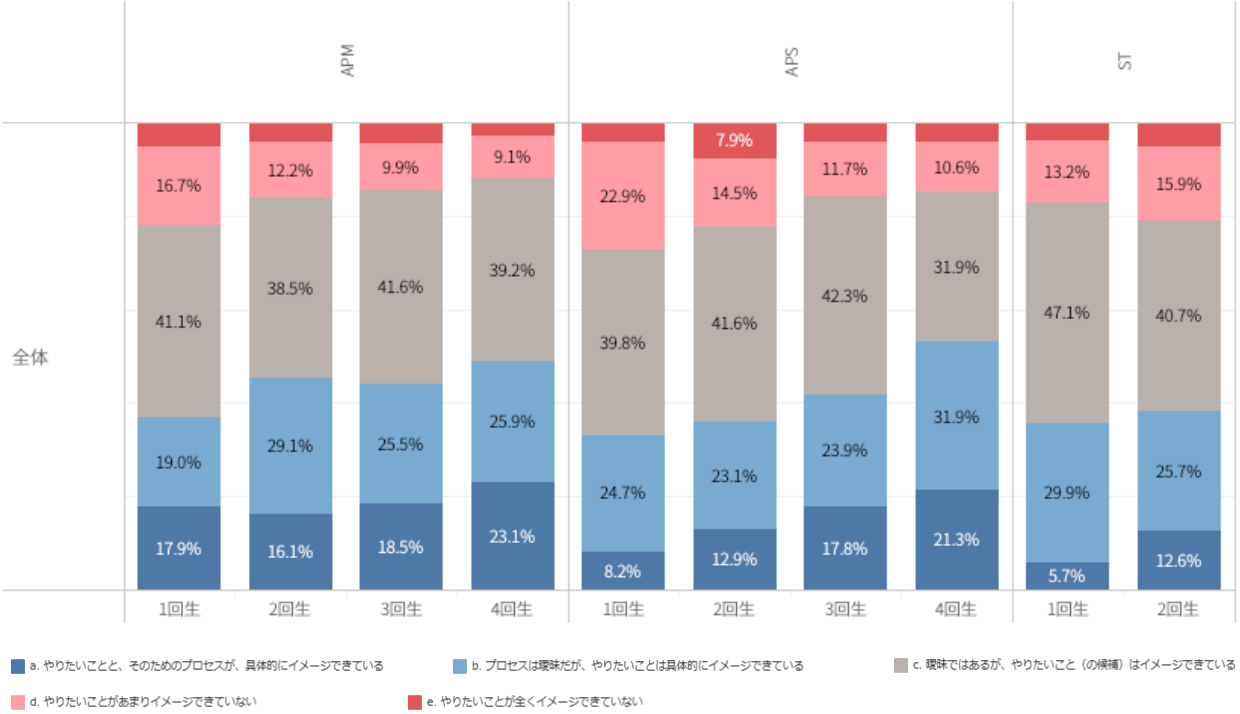
卒業後の将来について、やりたいことや仕事内容などがどの程度イメージができていますか？



◆学部別

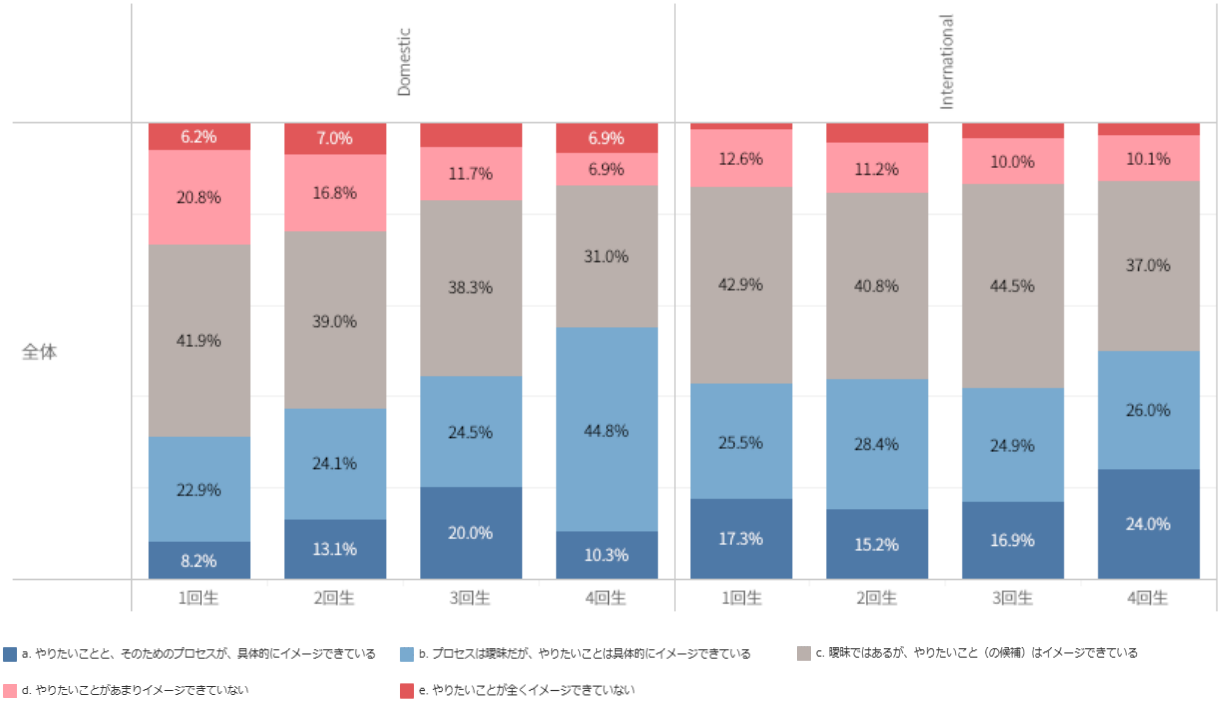
APS：学年が上がることで「やりたいことがあまりイメージできていない」割合が減少傾向、学びや就職活動を通じて後期で具体化していることが考えられる。
APM：学年が上がっても「やりたいこと」の割合が大きく変化していない傾向がみられる。入学時からビジネス志向が明確な学生が多いと推測する。
ST：2回生までしかいないため、対象外とする。

卒業後の将来について、やりたいことや仕事内容などがどの程度イメージができていますか？



◆国内・国際学生別
国内学生は学年が進むにつれて将来の方向性が明確になる傾向。特に 4 回生では「やりたいことが具体的なイメージできている」の割合が 55.1%まで急増し、模索状態から確信に変わるプロセスが見える。国際学生は「やりたいことが全くできていない」割合が国内生より半分以下少ない、将来に対する意識や明確さが早期から高いことを伺う。一方、「曖昧ではあるがやりたいことのイメージができている」を選択する割合が 40%で安定しているため、日本でのキャリア形成の不確実性や情報ギャップが生じていると推測。

卒業後の将来について、やりたいことや仕事内容などがどの程度イメージができていますか？



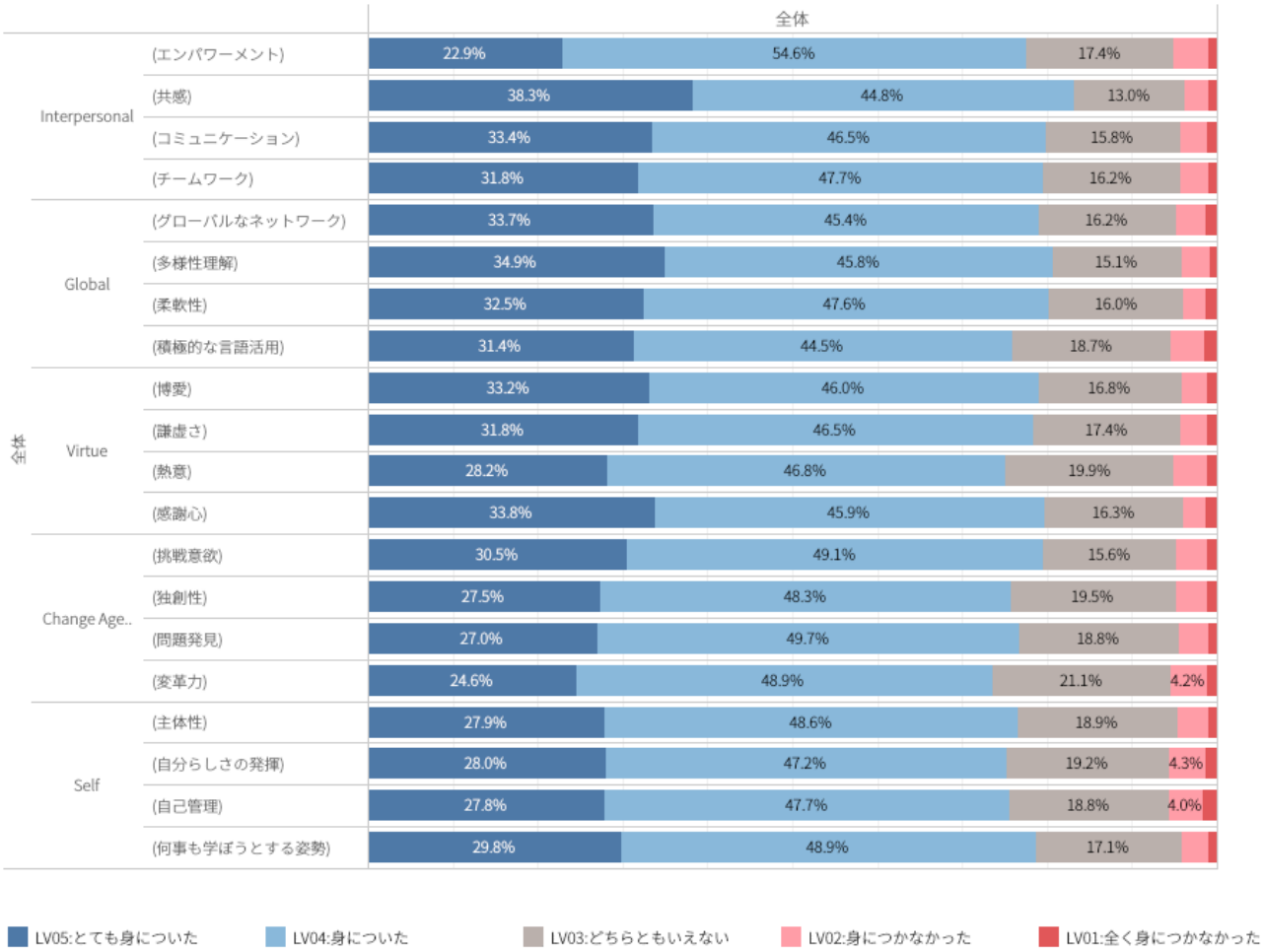
＜成長実感（入学以降 APU で習得した資質や能力）＞

2021 年度より APU Rubric のコンピテンシーに対して、「APU での学生生活を通じて現在までにどのくらい身に付けることができたと思いますか」という質問を行っている。

総じて「とても身についている」「やや身についている」が多数を占める。特に成長実感が高い領域は「Global」（「グローバルなネットワーク」「多様性理解」「柔軟性」「積極的な言語活用」）は平均 80%以上が成長を実感し、「Virtue」（「謙虚さ」「博愛」「熱意」「誠実さ」）に対しても、約 65%以上が成長を実感。グローバルな対応力が養われているとともに、人格的・内面的な成長も並行して進んでいることを示す。
一方、成長実感に“ばらつき”がある領域は「Change Agent」「変革力（24.6%とても成長した）」、「問題発見（27%とても成長した）」、「独創性（27.5%とても成長した）」の項目では、「とても身についている」「やや身についている」の割合が低め。

2023 年度の結果と比較した場合、多くの項目で、「とても身についている」の割合が微増し、
全体的な成長実感はやや上昇傾向がみられる。

APUでの学生生活を通じて現在までに以下に示すような資質・能力をどのくらい身に付けることができたと思いますか？



おわりに

＜問い合わせ先＞
全学企画オフィス IR チーム(irteam@apu.ac.jp)担当:李